えんちく PTA 会報

えんちく PTA 連合会

えんちくＰＴＡは塩尻東筑摩の
各地区単位ＰＴＡを応援する会報誌です。

写真：朝日小学校　撮影日：2015.8.1
朝日村『お夏祭り』
呼込み太鼓。カッコ良いでしょ！

写真：木曽楢川小学校　撮影日：2015.9.19
「PTA や地域の皆様といっしょの木曽楢川小運動会」

『子どもの豊かな未来づくり』
～共に学び・語り・育てよう～

2015
12月号

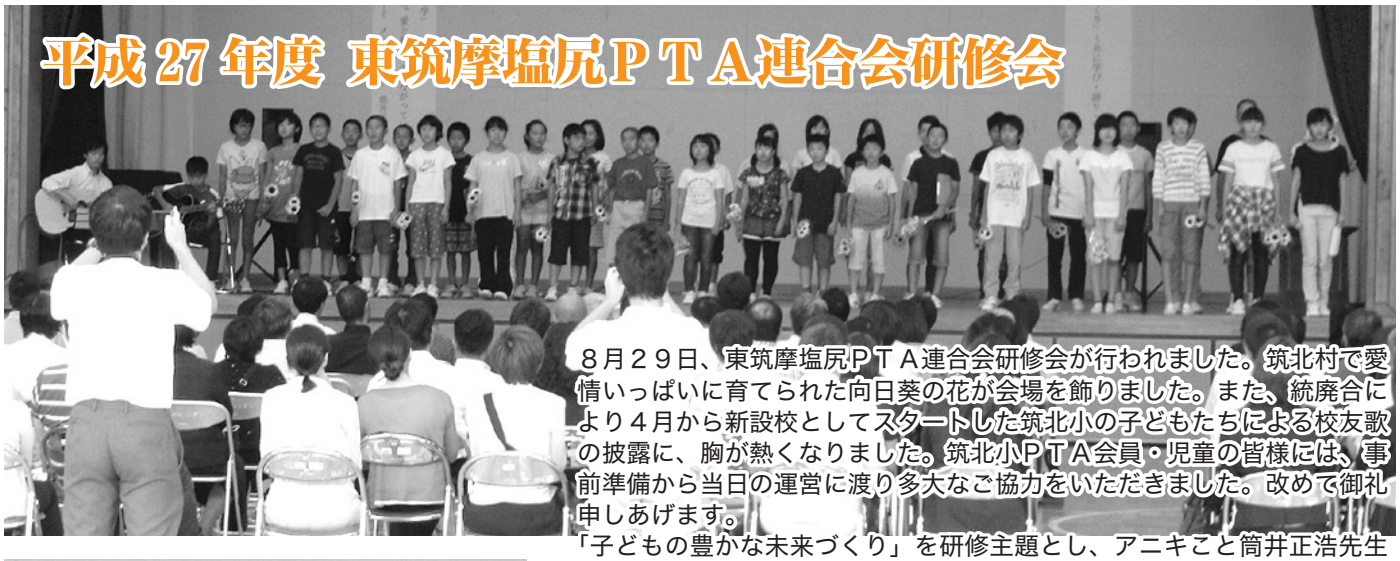
東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会報 No.25
http://enchiku.net/

特集
「平成27年度 東筑摩塩尻ＰＴＡ連合研修会」

シリーズ
「いっしょに学ぶ」　山形小学校
「学校給食レポート」　塩尻中学校
「こんなＰＴＡいかが」　朝日小学校
「私達の学校紹介します」　丘中学校

日本ＰＴＡ研究大会／関東ブロックＰＴＡ研究会／長野県ＰＴＡ研究大会
専門委員会活動報告／専門委員会講演会／Ｅコラ／お知らせと報告 .etc

平成27年度 東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会研修会



８月２９日、東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会研修会が行われました。筑北村で愛情いっぱいに育てられた向日葵の花が会場を飾りました。また、統廃合により４月から新設校としてスタートした筑北小の子どもたちによる校友歌の披露に、胸が熱くなりました。筑北小ＰＴＡ会員・児童の皆様には、事前準備から当日の運営に渡り多大なご協力をいただきました。改めて御礼申しあげます。
「子どもの豊かな未来づくり」を研修主題とし、アニキこと筒井正浩先生による講演会、さらに各分科会において個別テーマでの議論が取り交わされました。

■講師プロフィール
株式会社ゆめさぽーと　メンタルコーチ
1962年神戸市に生まれる。高校卒業後阪急電鉄に入社、野球部に入部。大阪代表として国体にも出場。同野球部コーチを経て監督を努める。引退後は業務に専念する傍ら部下の育成方法に関心を持つ。そこで、コーチングはスポーツの世界にも活用出来ると直感し、これこそが自分のやりたい事と感じ退社。その後、アスリート・指導者などにコーチングするようになる。
現在は高等学校の野球部を中心にフィジカルとメンタルの両面からサポートを行う傍ら、コーチングを企業の研修にも導入している。全国で展開している「アニキ塾」には、プロコーチや会社経営者など幅広い塾生がいる。2007年「ゆめさぽーと」を設立。講演会やセミナー開催など幅広く活動を行っている。

講演会「心で向き合う子育て学」
～子育てのきずなは愛と感謝でつながっている～

筒井先生ご自身の経験を、参会者の心に響く語り口調でお話をいただき、涙しながらお聞きする参加者も多かったです。そして親として子どもにできることは何なのか、やるべき事は何なのかを示唆していただきました。

お話は「環境が人を変える」と言うこと、「好かれる子に育てよう」と言うこと、「子どもに、自分で立ち直る経験をさせる」と言う３つのまとまりでした。叱咤激励ばかりの環境より、認められ誉められ続ける環境の方が子どもの力を発揮させることができる。相手の失敗を責め立てるのではなく、逆に相手を安心させられたり心地よい気持ちにさせられたりすることで、よりよい関係ができ、好かれる人間・求められる人間になる。いざという場面では、それを打開していくときにそれまで育ってきた過程における色々な体験（特に失敗経験）が大きな力になる。

子育てについて、何が正しいのか分からないことが多い。「これで良いのか？できるのか？」ではなく、「そこに向かってこれをやる！」これを決めることが大事、ということでした。

分科会「５分科会にわかれ研究会議」

第一分科会

各校事業を行うに当たり、その年度の役員は頭を悩ませていると思います。そこで東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会に所属する各学校の活動を発表していただき、参考にしていただけたらと「各学校の一押しのＰＴＡ活動」と題して、桔梗小学校ＰＴＡ会長の田口さんにご提案いただきました。

桔梗小学校においては、例年様々な分野の講師を招いての「寺子屋教室」を実施しています。今年度は南極観測隊の赤田さんによる「南極教室」、松本山雅ＦＣ片山様による「サッカー教室」を予定しているそうです。

その後、各校の正副会長の皆さんに、順に各校の特徴的な活動を発表していただきました。地域の方を講師に「漆器作り」「お手玉作り」「昔ながらの遊びをする」など様々な活動がありました。印象的だったのが「地域の方々との結びつき」です。資源物回収・商店街の方々からのバザー物品の提供・地域の方による屋台の出店など、地域の協力が大きく、学校と地域の結びつきの大切さを改めて考えさせられ、とても参考になる良い時間となりました。

しかし、保護者の参観日参加率の減少、中学生になると部活動に習い事が重なりＰＴＡ活動に参加する時間と人員の減少、その中で「新しい活動を考える難しさ」の課題も出ました。

最後に助言者の横山校長先生より「家庭・地域・学校、この３つの結びつきが大切」そして「みんなが楽しめる」「みんなの心に残る」これが大切なのではないかと思いますと、お言葉をいただき無事終了となりました。

【第二分科会】

１第二分科会テーマ：学校と地域の絆
＜塩尻東小学校金管バンド物語＞
２提案者：足助照夫 (塩尻東小学校)
３討議内容と結果
⑴地域行事（内容や参加・通知）について
①春祭りや道祖神祭りでは、子どもが減少し、参加も減っている。
②子どもの多い地区は行事も多いが、少ない地区は行事も減ってきている。
⑵地域との連携で工夫していることや今後の課題について
①村の行事に学校のクラスで参加するという取り組みで参加率を上げている。
②課題として、子どものいない家族の理解が難しいこと等
⑶今後の地域行事への思いについて
①高齢者や認知症の人が多く、そのことを知っている人が少なく、災害時等、避難することを教えてくれる人がいない
②中学３年生は玄蕃まつりの後、清掃ボランティアをして、地域との絆を深めている。
⑷助言者指導：森泉校長：桔梗小
①家族では味わえない体験、学校ではコミュニティースクールを立ち上げている。子どもが人とつながる力を高めていくきっかけになるのではないか
②仲間、時間、空間、人とつながる力、木に例えると根っこ、社会力、いろいろな他者、自然と関わっていく中で、様々なことを吸収していって欲しい
③三間（仲間・時間・空間）がなくなってきた。その力を育んでいくには、親が体験したことを子どもにも体験して欲しい。

【第三分科会】

「【子どものために】という視点で見直したＰＴＡ活動」というテーマで、広陵中・田中会長からの提案にて「子どものため」のＰＴＡ活動とは何かを考えてみました。

広陵中では【環境の整備】【安全・安心の確保】【社会経験の支援】【親子の交流】の４つの柱を基にした様々なＰＴＡ活動が本部を含む６つの部会にて行われています。

それぞれの学校ＰＴＡではどのような取り組みが成されているのでしょうか。ボランティアなど親子での作業、通学路の安全確保、寺子屋教室による社会教育、市ＰＴＡにおける行政懇談会において学校単位で出来ない事の市への提言、食育を考え生徒・ＰＴＡ・学校と三位一体となった年三回にわたる『お弁当の日』といった面白い取り組みも見られ、今行われている活動が「子どものため」になっていない物は無いと改めて感じ取る事が出来ました。他方、学校差があるものの、いずれの学校も役員不足といった問題を抱えている事実も改めて浮き彫りになりました。

しかしいずれの活動も「子どものために」成り立ち、学校だけでは出来ない事もＰＴＡ活動の支えがあり成り立っている事を再認識出来ました。今後、各地にてコミュニティースクールが導入されます。そんな中、ＰＴＡ活動の在り方を見直す良い機会となりました。今後各学校ＰＴＡの横の繋がりを密にすることで、コミュニティースクールにおける学校運営委員会と共に「子どものために」を考え、より良い環境を与えるものとなることを期待します。

【第四分科会】

第四分科会のテーマは、地域と共に活動するＰＴＡ組織のあり方として筑北中学校宮坂ＰＴＡ会長より発表していただき、筑北中学校の現況と計画案について説明がありました。

日本全国、人口の減少に伴い少子化問題は各学校にも影響があるようです。これに伴いＰＴＡ組織や活動内容も変更して行かざるを得なくなってきました。部会の縮小・役員定数を見直した学校や見直しをしようとしている学校も多いようです。見直しを行った学校と見直しを考えている学校の現状をお話頂き討議しました。小規模校は保護者の負担が大きく、規模が大きな学校は保護者の感心が低いという意見もありました。

後半は４グループに分かれコミュニティースクールについて話し合いを行い、発表して頂きました。地域ボランティアの方に活動して頂き、各産地の特色ある野菜・果物などの農業指導をはじめ生産から販売まで行っている学校も多いようです。また、放課後に退職した学校の先生が勉強を教えてくれたり、草刈り・フェンスを直すなど学校保護者の手の行き届かないところを地域ボランティアの方が行ったりしている学校もあるようですが、地域ボランティアの方も年々減ってきているのが課題です。

最後に田畑校長先生より自校の取組を交えながら助言を頂き終了致しました。

【第五分科会】

ＰＴＡ間での関わりを深めるために各ＰＴＡがどのように交流しているかというテーマから、筑北村立坂井小ＰＴＡ会長日向さんにより、実際に行われている「綱引きじゃんけんぽん大会」を資料と動画を元に発表していただきました。じゃんけんで負けても綱引きで逆転出来るという面白い発想の競技でした。

その後、各グループに分かれて各々の学校ではどのような活動が行われているのか、限られた短い時間の中で紹介し合い討議しました。最も多く出された意見は「少人数だからこそできる活動でそこには大きな繋がりがある」とか、逆に「大きな学校ではなかなか難しく関わりも少ない」という問題点も挙げられました。また「ＰＴＡ活動に興味を持って頂くことが大切」「活動を通して親同士・先生方・地域の方との親睦が深まる」「更に信頼関係が生まれより良い環境の中で育まれていくのではないか」という意見が出されました。

最後に助言者の筑北中・高坂校長先生より「それぞれの工夫を凝らした情報交換が出来て勉強になりました」と助言を頂いたあと、グループに分かれてアイスブレーキングを行いました。初めて会う方との交流はハードルが高く緊張するものですが、最後には参加者全員が笑顔になり、短時間で大きな繋がりが出来たように思います。

山形小学校

「放課後山形っ子タイム」

昨今の社会は、少子化・核家族化・電子機器（ゲーム）の発達など、様々な要因で子ども達が群れて遊ぶ機会が激減しているのが現状です。そんな中、「遊び」を通して「体力の向上」や「人間関係作りの力・相手を思いやる気持ちを育む」といった力の向上が大切ではないかという課題が見えてきました。

この現状を受け、わが校では水曜日の放課後に、子ども達が安全に安心して遊べるよう「放課後山形っ子タイム」という取り組みを行ってきています。これはコミュニティースクールの活動の一環で、学校支援地域本部の地域ボランティアの方（登録されている方は約１５名）が、できる人が・できる時に・できることを・できる範囲で、というスタンスで取り組んでくださっています。

内容は、子どもの遊び（活動）の見守りが中心となっており、校庭や体育館で元気に遊んでいるところをサポートしています。最近は、その場に集まった異学年の子どもたちの中から自然発生的に遊びが始まる姿も見られるようになり、子どもたち同士のよりよい関わりの姿も見られるようになってきました。また、宿題をしてから遊ぶ子どもも多いので、図書館も開放しています。宿題をする子どもの中からは「見てもらっているだけでやる気が出る」と言った声も聞かれているようです。このように、地域の方々に子どもたちを見守っていただく事で、多くの方とのつながりができたり楽しかった活動の様子を笑顔で話してくれたりすることなども増えているようです。

以上の様なことから「放課後山形っ子タイム」の取り組みは、学校と保護者だけでなく、地域全体で子ども達を育てていくという、山形村の素晴らしい取り組みだと思います。

今年は、年間で２０回程度行う予定です。水曜日の放課後は子ども達の元気な声が響いています。沢山遊び、沢山学び、今しか出来ない経験をたくさん積んで欲しいです。

山形村立　山形小学校
東筑摩郡山形村 3867
児童数 565 名（12 月 1 日現在）

シリーズ みんなだいすき 学校給食レポート Vol. 14

今回は塩尻中学校の給食をレポートします。

「学校給食レストラン」

我が塩尻中学校では年に一度、普段子どもたちが食べている給食を保護者の方が試食する「学校給食レストラン」という取り組みを行っています。これは、今年で３年目の取り組みで、試食の後アンケートをとり今後の給食運営の参考にするというものです。

今回私も、ウン十年ぶりに学校給食というものを試食しましたが、食べる前にまずびっくり！先割れスプーン世代の私には、箸で給食を食べたことなどなかったのですが、立派な漆塗りの箸で頂きました。生徒も同じ箸を使っていて、定期的に塗り替えをしているというこだわりようです。また、食べてもびっくり！！お汁やごはんが温かいことに感動！（世代がわかってしまいますが…）！さらに食材の量、栄養のバランス、地産地消にも取り組み、お米、牛乳、豚肉、鶏肉も県内産を使っていて、この進化は本当にすごいです。もちろん、味もばっちりでとてもおいしく頂きました。

〈今日の献立〉
- □ご飯
- □豆腐の五目揚げ
- □まぜっこサラダ
- □ピリ辛みそ汁
- □牛乳

トータル 808kcal

○豆腐の五目揚げレシピ

（材料　４人分）
- ・絞り豆腐　240g　・揚げ油　適宜
- ・鶏ひき肉　60g　・ねぎ　40g　・砂糖　小さじ３
- ・人参　20g　・濃口しょうゆ　大さじ１と１／３
- ・卵　１個　・みりん　大さじ１
- ・片栗粉　大さじ３　・ごま油　小さじ１

（作り方）
1. ねぎと人参をみじん切りにする。
2. 材料をすべて混ぜ合わせる。
3. ②を好みの大きさに丸め、170℃に熱した油で揚げる。
4. 鍋に調味料を入れて、煮立たせる。
5. ③を④のたれでからめる。

（ポイント）
- ・あたたかいうちにたれでからめるとおいしくできます！

シリーズ こんなＰＴＡいかが？

朝日村立 朝日小学校ＰＴＡの活動報告

毎年、新しく赴任してくる先生方がびっくりする行事があります。５年生が食育の一環で行っている「チャイルドファーム」と言ってグリーンボール（キャベツ）を地元のＪＡさんの協力と農家さん（ほとんどが保護者）の協力のもと苗の植え付けから収穫・販売までを行う活動です。グリーンボールが珍しいのか、この一連の作業が珍しいのか解りませんが、必ずビックリするというよりは食いつきます。今年は３年生も、食品が作られてから出荷され市場に運ばれスーパーに並び各家庭へ流通する過程を学び、またまた農家さん・ＪＡの協力の元すばらしい勉強が出来たと先生方や子どもたちが話してくれました。これこそこれからの信州型コミュニティースクールでは…とすこ～し鼻を高くしてしまいます。販売も僅か20～30分位で売り切れちゃうんですよ。すごいですよね。そういう私も家で作っているのに２個も買ってしまうんです。

夏には毎年お盆の頃になると「ヤマメのつかみ取り大会」が実施されます。地元の漁業組合の方・役場・ＰＴＡの役員で催されるのですが、３００人以上も来て下さるイベントになります。子どもだけでなく大人も喜んで参加してくださるのですが、まとめるのが大変！しかしそこはＰＴＡ役員の意地の見せ所。怪我なく、スムーズに、そしてトラブルもなく、参加してくださった皆さんいい笑顔で帰られました。朝早くから午後の一番暑い時間に頑張ってくれた役員さん達も笑顔で帰られました。感謝感謝です。こんな朝日小学校のＰＴＡっていかが？

第63回 日本ＰＴＡ全国研究大会 札幌大会

開催日：８月21日(金) ～22日(土)
場　所：北海道立体育センター他

「ひろがれ　子の未来！つながれ親力！～今　札幌から始まるこれからのＰＴＡ～」のテーマで、８月２１日は札幌市内１０箇所での分科会、２２日は北海道立総合体育センターでの全体会が行われました。えんちく郡Ｐから２名の役員が参加させていただきました。

えんちくＰＴＡが参加した第２分科会では、「家庭力を高める」として札幌市円山動物園・園長の田中俊成氏の講演、実践報告、パネルディスカッションが行われました。印象的であったのは「親がおはようと言う家庭は子どももおはようと言う。おはようございますと言う親は子どももおはようございますと言う。」子どもは自分の鏡というけどまさにその通りです。自分の子育て、自分の子どもに対するしつけや態度について振り返る良い機会になりました。

全体を通して、全国のＰＴＡ会員が同じように悩みを持ち「子どものために、子どもとともに」がんばっていこうと活動しているんだと強く実感しました。私たちも札幌ＰＴＡに負けないように大いに悩み語り合い学んでいきましょう。

第47回関東ブロックＰＴＡ研究大会 横浜大会

開催日：10月24日(土) 25日(日)
場　所：パシフィコ横浜国立大ホール他

子どもの生きる力
≪知・徳・体・公・開≫想いをつなぐ教育文明開化
～子どもたちと見すえる未来への船出～

『知・徳・体・公・開』を合い言葉に生きる力を持つ子どもを育てようという思いで企画された関東ブロックＰＴＡ研究大会が横浜で開催されました。

１日目は、６つの分科会に分かれ、講演会や研究発表が行われました。えんちく代表者２名は第４分科会に参加し、大儀見浩介氏の「メンタルトレーニングでポジティブライフ心身ともに健康になるために」の講演を聴講しました。講演会では、自らやる気をコントロールし人間としても成長していくためのスキル・それをサポートしていくためのスキル・プラス思考で何事も積極的に前向きな物事を考えられるようにする心理的スキルなど、どんな場面でも実力を発揮しやすくなるための話をしてくださいました。最後に、新潟県上越市立国府小学校ＰＴＡから伝統行事である海岸マラソン大会・外部団体との連携行事についてと、千葉市立生浜東小学校ＰＴＡから相撲大会で輝く子ども達・それを支える学校区内ＰＴＡや地域との連携についての講話がありました。

２日目は全体会。パシフィコ横浜国立大ホールで開催されました。記念講演では芸能活動・大学教授と多岐にわたり活動をされている菊池桃子氏の講演でした。「キャリア」をテーマに、よりよいキャリアにするために数年先の自分の姿を想像し、そのために今できることを今しなくてはならないことの大切さを講演してくださいました。

２日間のと横浜大会を終えて「生きる力を持つ子どもを育むため」の言葉をもとに学んだ大会となりました。

第56回 長野県ＰＴＡ研究大会 飯水大会

開催日：10月18日(日)
場　所：飯山市民会館

１０月１８日（日）最後の長野県ＰＴＡ研究大会が、飯山市民会館にて行われました。素晴らしい秋晴れの中、遠くから沢山の単Ｐ役員さん達が来てくださいました。

さて、研究会では「笑顔のコーチング」と題して笑顔の大切さ、その笑顔をいかに引き出すかを教えていただきました。毎日、素敵な笑顔で「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「いってらっしゃい」「お帰りなさい」などの言葉をかけられた方は自然と笑顔になる。そして、コーチング「人間の可能性を引き出すコミュニケーション」の三つの基本スキル「①最後まで聞く」「②質問する」「③ほめる」を使い笑顔を引き出すコーチングを行うと笑顔が伝染するそうです。家庭・学校・地域で皆の笑顔が溢れるよう、私も実践して周りを笑顔にして行こうと思います。

講演会では、「わが子を『飯が食える大人』にする思春期の子育て」と題して「自立した大人」に育てる為の講演をしていただきました。最近は自分に自信の無い子が増えている。三ヶ月位で仕事を辞めてしまったり、ありがとうやごめんなさいが言えなかったり、人間関係の苦い部分を知らない子が多いので、様々な経験を通して多少の事では挫けない心を作る。家族団らんの時間はとても大事。愛情が深いと反抗期がなかったりする。反抗期の子に対して苛立つのではなく発想の転換が大事だ、と教えられました。子育ての奥深さを心から感じた講演会でした。

松塩筑地区教育関係七団体連絡協議会による陳情

開催日：10月21日(水)
場　所：長野県庁

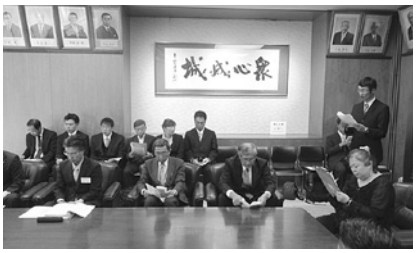
えんちく PTA 連合会は、加盟する“松塩筑地区　教育関係七団体連絡協議会”の活動として、１０月２１日（水）、長野県庁にて、西沢長野県議会議長、並びに伊藤長野県教育委員会教育長に今年度の教育問題に関する陳情を行いました。

＜陳情事項の骨子＞

１．多様化した児童生徒への細やかな指導の実現について
　⑴国基準３５人以下学級の早期実現にさらに強い要請のお願い
　⑵特別支援学級児童生徒の指導・支援の充実のため、国や県への財政的な支援の要請・国への特別支援学級設置基準の見直しの要請のお願い

２．公立高校が、魅力・特色ある学校づくりを進めるための支援について
　⑴特色ある学校・カリキュラム作りを進めるための予算措置拡充をお願い
　⑵松塩筑の公立高校には無い介護・福祉学科をはじめとする新たな学科の新設、当地区が特色ある学校づくりのモデル地区となるための、支援要請のお願い

１に関しては小・中学校の教育問題として多様化する生徒ひとり一人にしっかりと教育の目が行き届くようにしたい、２に関しては高校の教育問題として人気校へ進学希望が集中するため定員割れの高校には特色ある魅力的な学校づくりを推進していただきたい、というものです。特に１⑵２⑵は、えんちくＰＴＡ連合会として全単Ｐのアンケート調査からの要望であり、この機会に陳情できたのは最大の成果となりました。



第２回専門委員会協議会　教育問題・父親母親・学校地域連携委員会

開催日：９月２０日(土)
場　所：東筑摩塩尻教育会館

教育問題検討委員会

今回の研究テーマは「部活について」でした。長野県教育委員会より出ているスポーツ活動指針を見ながらの検討会となりました。指針では朝部活は廃止、土日の練習は(練習試合を除く)午前中のみ、しかも両日はやらない等々。それに沿って、現状はどうなっているのか話し合って頂きました。

・朝練習はほぼ毎日行っている。
・土日の練習もある。
・部活動をやっていると内申点が上がり、受験に有利だと聞いている。(本当にそれで良いの？)
・学校の方針で必ず全員が部活動に入らなければいけない。(やりたい競技なら良いのだが…)
・意外と知らなかった才能を知ることができるのでは？（絶対に部活に入らなければいけない所にたいして)
・朝練習や夜練習は大変だと思うが時間管理やスケジュール管理の為には必要では？
・県のアンケートによると朝練習を行っている生徒の約三割が睡眠不足とあるが、それだけを信用して良いのか

等々の賛否両論の意見がだされました。

やはり、中途半端が一番いけないとおもいます。何が良いか悪いかの判断は出来ませんが、こうした方が良いのでは！と言うはっきりした考えを子ども・保護者・先生が持ち、話し合って行くのも良いのではないでしょうか？

父親母親委員会

第２回目の委員会では年間テーマでもある「自己肯定感を高める関わり方」をふまえ「①自信をつける声掛け」「②ほめ方」「③叱り方」を３グループに分かれ意見を交換しました。

「叱り方によって左右される、誉め方や普段の声掛けや関わり方も大切」、「子どもの気持ちを汲んで代弁するステップを踏んでから必要なことを伝える」、「子どもをよく観察しその理由や気持ちを受け止める」、「追い詰めない話し方、子どもの気持ちや理由に耳を傾けて逃げ道を作ってあげる」、「事実だけをシンプルに叱る」

といった意見が出されました。

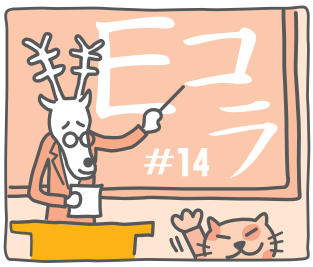
子育ての中で誉める事と叱ることは自己肯定感を高める上で重要な意味を持ち、事実に対して一方的な言い方ではなく親の気持ちを伝え、想いを添えることで子どもも親の想いを受け止め自己肯定感が高まるはずです。「私は…」という想いを伝えた誉め方と叱り方は、自尊感情という大切なものを育むことになるのではないかと理解を深めることができました。

学校・地域連携委員会

第２回学校地域連携委員会は筑北村立聖南中学校・仲弘久先生を講師にお招きして、信州型コミュニティースクール「聖南モデル・聖南中きささげ応援団　～立ち上げと実践から～」について約一時間の講演をして頂きました。また、休憩をはさんで質疑応答の時間を設け、各委員からの質問について回答をして頂きました。

全体を通して、立ち上げには全く０（ゼロ）からのスタートではなく、これまでの学校と地域との関わりを再認識してみること、学校教育目標を位置づけること、組織には柔軟性を持たせて出来る範囲で考えることが必要で、継続させるには学校・支援者双方にメリットがあること、支援者の方にも輪を広げ、つなげ新たな支援者が出てくる仕組みを構築していく必要があることを改めて強く感じる講演でした。

最後に、ご多忙にも関わらず専門委員会におけるご講演を快諾して頂いた仲先生には委員会役員及び委員一同この場をお借りして御礼申し上げます。



ある言葉との出会い

山形小学校
望月　秀明　先生

中学入学から始めたサッカー。高校、大学、社会人とサッカーのキャリアを積む中で、多くの方々（選手としても指導者としても）と出会ってきました。たくさんの方と出会えた分、たくさんの事を教えていただきました。その教えていただいた事の中に、次の様な言葉があります。それは、「学ぶ事をやめたら、教えることをやめなければならない。」という言葉です。これは、私が所属した社会人チームの監督から教えていただいたもので、フランス人のロジェ・ルメール（サッカーフランス代表監督の経験を持つ）という方の言葉です。「教えること」という言葉は、一方的すぎる印象があり、あまり好きでは有りませんが、聞いた瞬間「ドキッ」としました。教職という仕事に就いていた私は、クラスや部活の子どもたちの前で、一方的に自分だけの思いを押しつけていたことに気づかされたからです。まるで、俺が全てだ、と言わんばかりに…。

時は流れ、時代は常に変化していく中、これでは進歩がないと反省しました。伝えたいことがあるとき、それは自分の凝り固まった考えではないか、偏った考え方ではないかを、様々な情報を元に自分なりに学んだ上で子どもと共に考えていく。こんな意識の持ち方が大切ではないかと考えるようになりました。

何かの指導者であれ、親であれ、どんな立場であってもこの意識は変えてはいけないと思っています。自分だけの偏った考えではなく、幅広い視点からの考えこそが、伝えるべき価値のあるものだと思います。30歳を目前に知ったこの言葉。この時以来、ずっと意識しています。（つもりです…。）

お知らせと今後の予定

東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会
第３回専門委員会
■期日　平成28年１月23日(土)
■会場　東筑摩塩尻教育会館

東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会
第４回専門委員会、単位ＰＴＡ会長会(まとめの会)
■期日　平成28年２月13日（土）
■会場　東筑摩塩尻教育会館

県ＰＴＡ主催・
単位ＰＴＡ役員研修会（中南信）
■期日　平成28年２月27日(土)
■会場　辰野公民館

えんちくPTA連合会 No. 25
発行日●2015年12月17日 発行●東筑摩塩尻PTA連合会 〒390−0876 長野県松本市開智2丁目3−28 東筑摩塩尻教育会館内
URL●http://enchiku.net/ E-mail●enchiku.pta@gmail.com TEL0263(32)1187 FAX●0263(32)4041
印刷●アサカワ印刷株式会社

信州型コミュニティースクール「聖南モデル」 聖南中きささげ応援団 ～立ち上げと実践から～ 第２回学校地域連携委員会

講師：筑北村立聖南中学校
仲　弘久　先生

第２回学校地域連携委員会では、筑北村立聖南中学校　仲　弘久先生をお招きして信州型コミュニティースクール「聖南モデル」聖南中きささげ応援団～立ち上げと実践から～について講演をして頂きました。

聖南中学校では平成２５年度から信州型コミュニティースクールの立ち上げ準備を開始し、平成２７年４月に立ち上げ、現在実践されています。仲先生には立ち上げ準備から現在までの様子を説明していただきました。前半は立ち上げまでの様子のお話です。

【ステップ１】『知ること』

先進的な取り組みの山形小の視察、実際に取り組んでいるクラブ活動の様子を見学、説明を聞く。

【ステップ２】『考える』

①本校なりの信州型コミュニティースクール②これまでの地域との関わりを整理③学校教育目標の位置づけ④今できる範囲のものでイメージをデザイン化。これまでの学校と地域との関わりを整理すると様々なつながりを再認識できた。

これらをもとに①学習、環境における支援②夢プロジェクトへの支援③スポーツ文化活動への支援、の３点を柱にイメージ・デザインしていく方向を考えた。

【ステップ３】『実現化』

①名称の確定「聖南中きささげ応援団」②運営委員会を組織③平成 27 年４月に立ち上げができるように準備会を開催。

後半は応援団の実際ということで４月から９月までに取り組んだ活動ついてのお話です。①聖南中学校の伝統である「どっこい清掃」を発展させたいという生徒会の要請で実現した「どっこい清掃交流」②村社協に協力をお願いして毎年実施している福祉活動③部活動の保護者会を中心としたスポーツ・文化活動への支援では４つの部で成果につながった④夢プロジェクトとして全校混成合唱「コール聖南」、東北の被災地を訪問しボランティア活動を行うこと、国際交流活動。などについてお話しして頂きました。

私達の学校紹介します

塩尻市立
丘中学校
児童数 545 人（11 月現在）
校長　田畑 卓郎　ＰＴＡ会長　近藤 典克
塩尻市広丘野村 1302
http://www.shioziri-ngn.ed.jp/oka-j/

丘中学校の教育目標は「真理を求め真実に生きる」のもと先輩達が築いてきた良き伝統を在校生が受け継いでいます。広大な赤松林の中豊かな自然に恵まれた丘中学校です。

校章は、学校の周りにたくさん咲いている「すみれ」の花をモチーフにしています。

朝は、校長先生自らが校門で生徒達にハイタッチでお出迎え！通勤の方からも非常に明るく元気がもらえると評判です。

第 65 回となる生徒会最大の行事・松蓼祭（文化祭）

今年のテーマは【Piece&Peace ～最高の仲間と笑顔をつなごう!!～】音楽会、平和学習報告、各学年の総合的な学習の発表、科学部の活動報告等さまざまなことを行います。

中でも全校レクとして大縄跳びや全員リレー。各学級がまとまり一つのことを目指す生徒一人一人の姿は心を打たれました。

金環日食を全校生徒で観測

2012年５月２１日の金環日食を全校生徒全員（約 600 名）が自宅周辺で観測し、そのデーターを科学部が中心となり直径を精密に求めた研究を行いました。この研究は、日本天文学会で賞を受賞するなど素晴らしい成果を収めました。

この日時計は、校舎２階の外壁に設置され日光でできる影で時刻を知ることができます。

このように行事がたくさんある丘中学校。「地域の宝」である生徒一人一人が明るく元気に学校生活に励み日々成長の喜びを感じ自分の可能性をいっぱいに広げていく学校になるように願っています。